



「公民館の現代的役割を考える」

日本公民館学会会長の上田幸夫さんが、公民館の担い手に焦点を当ててお話してくださいました。職員養成や自己形成、担い手として問いつけるものなどの点から、担い手としての意義を語っていただきました。

また、事例発表や座談会では地域住民を主体とした活動やコロナ禍における活動の工夫など、これからの公民館活動の在り方を考え、激務の中でも公民館活動に意義を見出して、意欲的に進めていこうとするきっかけとすることができました。

受講者：36名

<研修内容>

【事例発表Ⅰ】

演題 「住んでみたい・訪れてみたい入山辺を
目指す住民主体の地域づくり」



講師 松本市入山辺公民館 館長 **小笠原 鉄夫 氏**

【事例発表Ⅱ】

演題 「幸せのシェア～コロナ禍の“今”だからこそやれること～」

講師 塩尻市広丘公民館原新田分館 主事 **宮田 幸恵 氏**



【講義】

演題 「公民館の現代的役割を考える～主としてその担い手をめぐって～」

講師 日本公民館学会会長

日本体育大学スポーツマネジメント学部 教授 **上田 幸夫 氏**

【座談会】

テーマ 「担い手と支え手が語る、公民館の現代的な役割」

登壇者 上田 幸夫 氏 小笠原 鉄夫 氏 宮田 幸恵 氏

塩尻市中央公民館 主事 **安藤 寿秀 氏**

松本市入山辺公民館 主事 **吉田 将大 氏**

コーディネーター 長野県生涯学習推進センター 所長 木下 巨一



<受講者アンケートから>

- どちらの発表も、身近で今大切なことを見出して取り組んでいることに感銘した。(公民館)
- 地域の中から宮田さんのような熱意や行動力のあるキーパーソンを見つけていきたいと思いました。(公民館)
- 事例発表とても参考になりました。ありがとうございました。(市町村職員)
- 個人では難しくても地域や公民館の支えがあればやりたいことが何でも出来る、解決できることが増える。働き世代や若者にそこを気付いてもらうように公民館が仕掛け、担い手として巻き込んでいくことが必要だと感じました。(公民館)